

倫理的資本主義を目指して

哲学者／ボン大学教授

THE INSTITUTE アカデミックディレクター

マルクス・ガブリエル

私たちは、危機が入れ子構造になった時代に生きている。生態系の危機が社会経済活動

に埋め込まれる一方で、社会経済活動はというと、地政学的利益および国家的利益につながっている。そして、これらの利益は自由民

主主義の危機と結び付き、自由民主主義はとりわけ技術科学の進歩と相関している。技術科学の進歩は、ソーシャルメディアやその他の社会を破壊するようなデジタル革新をもたらした。過剰人口および極端な形を取った社会経済的平等もまた、その他の危機を助長するし、因果関係が入り組む輪の中で、後者によって前者もまた、いつそう悪化させられる。

一部の知識人の間では、資本主義がこうした危機的な状況の主要な牽引役であると思われている。資本主義が悪評を浴びているのは、それが生産手段の私的所有に基づく自由市場、すなわち標準的な資本主義の手段では、明らかに解決できない問題を生み出している

一方で、問題を解決する力が低下しているように見えるからだ。

確かに、剰余価値がどのように市場経済において産み出されるのかは、倫理のあるいは広く社会的な考慮に明らかに左右されるわけではない。それが対応するのは、自由市場すなわち、いかなる集中的統制にも服さない市場という考え方そのものであるからだ。たとえ、それが政治的であろうが倫理的であろうがいずれにもかかわらずである。しかし、資本主義的な経済システムによる経済的な剰余価値の生産は、間違いなく道徳的進歩とつながっている。この道徳的進歩こそが、私がこの寄稿でその概要を説明したい倫理的資本主義という考え方に対応するものである。

オックスフォード大学ビジネススクールのコリン・メイヤー教授は、近刊の『資本主義と危機——その修正方法』〔邦題仮訳〕の中で、「真の利益」という概念があることを主張し

ている。真の利益とは、富の蓄積、さらには資本の蓄積という企業の基本目的に照らして、企業が作り出す問題解決策によって生み出される利益のことである。真の利益は、単なる富の蓄積とは異なる。その理由は、それが、重要な問題を直接的に解決する製品(例えば、パンデミック時の医療用品、自動車業界のハイテクeモビリティ)、あるいは日常生活を改善するために人間同士や自身に対する態度を変えるような製品(ここではゲーム分野、書籍市場、教育システムなどが考えられる)を提供し、人間の条件を改善することを目標とするものだからである。

この点でメイヤーは、自身が「道徳律」と呼ぶものに支配される文脈に資本主義を埋め込むことを提案している。メイヤーによれば、道徳律とは、互いに助け合うこと、および互いを助けるために互いに助け合うという、私たちの実践に存するものである。メイヤーは、



Profile

マルクス・ガブリエル

1980年生まれ。2005年に後期シェリングをテーマにした論文でハイデルベルク大学から博士号取得。

2009年に権威あるボン大学哲学正教授に史上最年少で抜擢。「新実在論」を打ち立て、世界的に注目を浴び、「なぜ世界は存在しないのか」が哲学書としては異例のベストセラーに。

それによって人間以外の生命体に何を負うべきかに関する道徳的事実を発見するための実験室の一部であると考えられることができる。というのも、ビジネス部門は、ミクロおよびマクロの決定を通じて、社会経済的現実を形成し、

べきであるのか。道徳的事実とは、これに関する有意義な問いに対する真の答えである。例えば、私たちは人間や他の動物を拷問すべきではない。これは、私たちが人間であるという理由だけで、互いに負っていることである。同様に、緊急の手当てを要する人がいれば、自分にできるのであればその人を助けるべきである。

これこそが私たちの存在理由、あるいは存在目的である。これまで主張しているが、私も全く同感である。これは、資本主義に対する全く異なる概念把握の基礎なのだ。これによると、資本主義は、単に市場経済または市場社会に生産手段の私有を加えて定義される経済システムではない。むしろ、資本主義は、問題解決を図り、道徳的に進歩的である諸制度のシステムであって、その全体的成功は、倫理的問題を解決することへの貢献という観点から

評価されるものであり、評価されるべきものである。そうしたものが、倫理的資本主義という概念なのだ。

様々な形で人類の進歩に大きく貢献した資本主義であるが、その実際に既に存在する道徳的・倫理的な基礎をどのように改善できるかを理解するために、倫理と、倫理に対する新しい発見的手法をビジネスの世界に組み入れる必要がある。その目的は、技術科学的、経済的、道徳的進歩を再び結び付ける新しい啓蒙のための制度的条件を創造することにある。

この文脈では、ビジネス部門を、Human Co-becoming(共に人間的になりゆく)を含むHuman Being(人間)として互いに何を負うべきか、また

生産し、維持し、変化させることによって、直接に社会経済的現実に触れているからである。これらの決定は、自社の富の生産がより大きな利益に寄与することを理解している、責任を有したリーダーによって行われるのが理想であるが、必ずしもそうはなっていない。とはいえ、見識があり責任を有したビジネスリーダーに倫理的な意思決定を任せただけでは十分ではない。私たちは人文学、人文学的な社会科学、芸術、市民社会からの知識を、道徳的に正しい意思決定を行う空間を定める方法論に組み入れることで、経済を強化する必要があるのだ。

(注)マルクス・ガブリエル、クリストフ・ホルン、アンナ・カツツマン他『新しい啓蒙に向かつて——未来志向の人文学の擁護』[邦題仮訳]、インターベンションズ 第1巻、ザ・ニュー・インスティテュート編、ビーレフェルト、トランスクリプト出版、2022年を参照

複雑な商取引において、道徳的事実が何であるかは常に明らかでない。ソーシャルメディア企業は、そのビジネスモデルの意図せざる結果として生み出された民主主義への脅威を予期しておくべきだったのだろうか。あるいは、彼らが確実に気付いている、自社のサービスへの依存症についてはどうなのだろうか。

倫理的資本主義モデルでは、こうした倫理的な問いに対しては、人文学者、社会学者、哲学者、そして消費者や生産者の実体験に携わる様々な分野の実務家が、同等にチームを組んで答えることができる。彼らは未来的な製品のプロトタイプを研究したり（AIの倫理や、文学や教育システムにおけるChatGPTのような自然言語処理システムの役割等々に関連する諸問題を考える）、より良い、倫理的により進歩した製品を作る方向にビジネスが動いていくようにする意思決定の空間の評価を行ったりできる。例えば、ソーシャルメディアでは、人々がお互いを侮辱することを不可能にするデジタルインフラを作ることが可能である。これは、メッセージの語調を変え、アルゴリズムやフィルターによって実現可能なのだ。それは、怒りや恐怖やその他の形で毒性を生み出すのではなく、自由民主主義と優しさを向上させるために、AIソフ

トウェアを新しく使うことで生み出される倫理的な製品になることだろう。

化石燃料に駆動された近代から持続可能な未来へと社会的・生態学的に転換することは不可避である。その副作用として発生するエネルギー危機のような人類の大きな問題に対する大規模な解決策は、一般に、巨大な形態の資本と真の利益を必然的に生み出すことになる。例えば、常温核融合に関連する機会について考えてみよう。もし常温核融合がある規模で実現可能であることがわかれば、それは人間の行動空間と経済全体を変えるだろう。それは、私たちの最大の問題の一つに対する倫理的に極めて妥当な解決策になる一方で、その副作用として、一部の人々が信じられないほどの富を手にするようになる。

カール・ポランニーがその著書『大転換』の中で強調した、産業資本主義はその自己破壊的、搾取的活動に対して政治的、規制的反応を必然的に生み出すという、卓越した考えがある。それはあなたかも、技術科学的進歩の「創造的破壊」（シュンペーター）に対処する唯一の方法は国家に訴えることであるかのようなものだ。しかし、倫理的資本主義は、そうした考えをも超えていく。単なる富の蓄積の経済システムと、その行き過ぎを政治的に規制することの間には、第三の道がある。そ

して、この第三の道が倫理的資本主義である。それは、資本主義の成功物語が事実上、社会的、倫理的進歩と結び付いているという限りで、実は既に存在しているのだ。私たちの欠点は、ビジネスの世界が人間によって運営されていることを十分に理解していないことである。つまり、生き残り、繁栄し、その結果成長するためには、互いを助けるために互いに助け合わなければならない社会的哺乳類によって運営されている、ということである。

したがって、私たちに必要なことは、経済学という学問とその理論に基づく実践、すなわちビジネスの世界の倫理的基礎を明確に概念把握することである。そのうえで、経済自体の中心や核心で生じている、学際的で部門横断的な深い協力様式を生み出すことによって、これらの倫理的基礎を改善する必要がある。換言すれば、学術部門の責任は、ビジネスコンサルタント業務という新しい役割に開かれることにある。その機能は、新しいカリキュラムやその他の手段によって、人間の条件を改善することであり、その目標は、より高いレベルの倫理的洞察に向かって共に歩むことである。それに基づいて、ビジネス部門は、この危機の時代における最も深刻な問題を解決するために設計された新しい製品を生み出すことができるのである。